

# 探 鳥 会 報 告

【目的】 裏磐梯地区の野鳥の生息状況を調査する

【概要】

(1) 調査実施日

第1回	2019年	1月	9日	-5℃	雪
第2回	2019年	2月	13日	-5℃	雪のち曇り
第3回	2019年	3月	13日	-4℃	曇り
第4回	2019年	4月	10日	0℃	曇り
第5回	2019年	5月	9日	7℃	晴れ
第6回	2019年	6月	8日	14℃	雨
第7回	2019年	6月	13日	9℃	晴れ
第8回	2019年	7月	10日	12℃	晴れ
第9回	2019年	8月	8日	20℃	晴れ
第10回	2019年	9月	12日	14℃	晴れ
第11回	2019年	10月	10日	3℃	晴れ
第12回	2019年	11月	13日	-1℃	晴れ
第13回	2019年	12月	12日	2℃	雨

(2) 調査者

裏磐梯エナガの会

五十嵐悟 (第2～8、10、12回)、池田明美 (第1～6、8～13回)、  
伊藤延廣 (第4～8、12回)、小椋敏也 (第2回)、粕谷正則 (第3～6、8～13回)、  
芝澤隆男、恵子 (第3～4、6～10、12回)、武田光正 (第4回)、  
友坂豊 (第1～4、6、8回)、中村純平 (第3回)、  
中村聡子 (第1、3、6～7、11回)、平澤桂 (第1～2、12回)、  
二神紀彦、ちぐさ (第6回)、永山駿 (第2、4回)、  
星崎歩美 (第1、3～8、12回)、宮野敏子 (第6～7、11～12回)、  
宮本千帆 (第4、6、8、10回)、中森正茂 (第1～13回)

## 【結果、考察】

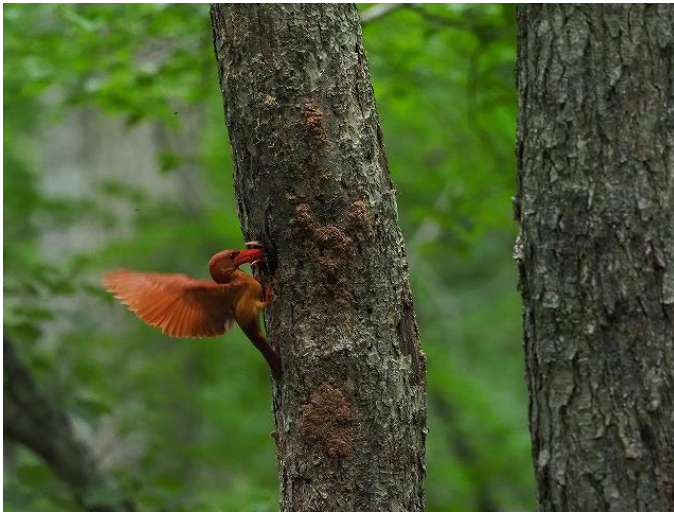
### 冬（1月～3月）

レンジャクは200羽ほど飛来し、カンボクなどの実は残っていたが、1月中旬には裏磐梯から姿を消した。理由は不明。オオマシコも少なく、ベニヒワは確認できず。

### 春・夏（4月～9月）

例年通り4月下旬から飛来し、キビタキ、オオルリも普段通りに観察できた。特質すべきは、マミジロで1つのエリアに3つがいが入り、競合してオスがよく囀っていたため、観察が容易であった。

アカショウビンも例年通り5月20日前後に飛来し、3つがいの繁殖が確認できた。7月20日頃の巣立ち前の雛がアオダイショウに襲われてしまったが、その後2回目の子育てを行い、8月27日に巣立ちを確認した。アカショウビンは縄張りも広く、2度目の繁殖は失敗することが多く、裏磐梯で2度目の子育ての成功を確認したのは初めて。2回目の巣穴は低い場所であったため、巣立ち後の巣を観察することができた（下の写真参照）。



ミサゴは今年で4年目の繁殖が確認できた。オオジシギの飛来は少なく繁殖できているか不明。遷移の進む裏磐梯から姿を消す筆頭と考えている。キバシリは繁殖が定着し、個体数も増えてきている。

## 秋・冬（１０月～１２月）

数年に一度のハンノキの実があまり成らない年であったため、マヒワが裏磐梯に居つける状態ではなく、例年になく非常に飛来が少なかった。少数がスギ花粉などを食べて過ごしていた。

レンジャクは11月10日頃から飛来し、ヒレンジャク300～400羽、キレンジャク100羽ほどを確認。キレンジャクは関東では珍しいため、バーダーには人気がある。年内にカンボクなどの実も食べつくし、他所へ飛来して行ってしまった。年越し後すぐに見られなくなるのは珍しい。

オオマシコも11月多数飛来し、11月中旬には30羽ほどが確認できた。立派なおすが多い印象。今年はキハダの実成りがよく、ツグミの飛来数が比較的少なかったため、長く観察できている（右の写真参照）。



イスカは12月頃に飛来し、年明けには200羽以上の群れになった。アカマツの松かさ豊富なためのものであるが、アカマツは分散しているため、観察しづらい状況であった。

調査記録の詳細は添付資料の通り。

（略号） 姿：V さえずり：S 地鳴き：C 飛翔：F ドラミング：D